

地域研究企画交流 センター活動報告

地域研究企画交流センターでは、12本の共同研究会の開催に加えて、次のような活動を行っております。

[地域研ホームページ]

地域研究企画交流センターのホームページを、国立民族学博物館のホームページ (<http://www.minpaku.ac.jp>) 中に開設しております。センターの概要を始めとし、『地域研ニュース』(1～3号)と英文 *JCAS News* (1～2号)の全文、および「イスラーム地域研究」第3班の活動状況をお伝えしております。『地域研ニュース』や英文 *JCAS News* は、最新号の内容を順次追加していき、さらに既刊の『地域研究論集』の目次も掲載してまいります。なお、ホームページは日本語と英語の二カ国語でアクセスしていただけるため、日本のみでなく、海外の地域研究者への情報発信源としても充実させてまいります。

[国際シンポジウム]

昨年度の国際シンポジウムは、1998年1月20～22日に文部省地域研究集会「中東研究の中のイスラーム」、1月27～29日に特別共同研究「国家と民族集団」第2回シンポジウム「ヨーロッパ統合の文脈の中の地域主義と移民問題」、3月10～12日に特別共同研究「人口移動の基礎研究」第3回シンポジウム「中央アジアの人口移動——その歴史と現在」の3本を開催しました。国内・海外から多数の参加者をお招きし、活発な議論を展開することができました。

[シンポジウム報告書]

JCAS Symposium Series として刊行しております地域研国際シンポジウムの報告書は、1997年11月に *Contemporary Migration in Oceania: Diaspora and Network* を、12月に *Diversified Migration Patterns of North America: Their Challenges and Opportunities* を刊行しました。国際シンポジウム報告書は、順次刊行の準備を進めております。

[ニューズレター]

地域研究企画交流センターの活動記録として、『地域研ニュース』(年2回刊行)6号および英文 *JCAS News* (年1回刊行)3号を発行しました。

[イスラーム地域研究]

地域研究企画交流センターは、昨年度から文部省科学研究費創成的基礎研究(新プログラム方式)「現代イスラーム世界の動態的研究」(研究リーダー、佐藤次高)の第3班「イスラームと民族・地域性」として活動を始めました。この研究は2001年度までの5年間に、イスラーム地域研究の新しい手法や情報システムの開発、若手研究者の育成をめざしたものです。第3班は、教育、マスメディア、マイノリティ、ジェンダーを共通のキーワードとして「国民国家とムスリム・アイデンティティ」、「現代のムスリムと文化摩擦」、「現代イスラームの資料収集」の3グループが研究を分担しております。昨年度開催の国際シンポジウム、「中東研究の中のイスラーム」ならびに「中央アジアの人口移動——その歴史と現在」には、この新プログラムの活動も反映しております。

『地域研究論集』寄稿要項

1. 『地域研究論集』は、地域研究に関する論文、研究ノート、資料、研究展望等を掲載・発表することにより、地域研究の発展に寄与するものとする。
2. 『地域研究論集』に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館の研究部および地域研究企画交流センター（以下「本センター」という）の教官（客員教官等を含む）
 - (2) 本センターの組織・運営に関与する者
 - (3) 本センターの連携研究機関に所属する研究者
 - (4) 本センターの共同研究会に所属する研究者
 - (5) 本センターが受け入れた各種研究員
 - (6) その他本センターにおいて適当と認められた者
3. 原稿執筆にあたって本文中で使用できる言語は、原則として日本語とする。注記等においてはその他の言語を使用しても差し支えない。
4. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 寄稿する原稿が論文の場合は、執筆者が選択する外国語でタイトル・ページに収まる程度の要旨をつけるものとする（欧文の場合で約240語）。
6. 原稿には執筆者名のローマ字表記、所属機関、職名および原表題の英文表記を付記するとともに、日本語と英語で各5つのキーワードをつけるものとする。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しないが、400字詰め換算で50枚程度を標準とする。
8. 寄稿する原稿は、原則としてワープロ原稿とし、2部提出するものとする。採用が決定した段階で最終稿のフロッピーディスクを提出する。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、レフェリーによる審査のうち、採否を決定する。なお、原稿は採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆にあたっては、『『地域研究論集』執筆要領』によるものとする。
12. 原稿の寄稿先および連絡先は、次のとおりとする。

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
国立民族学博物館地域研究企画交流センター内
『地域研究論集』編集委員会
電話：06-878-8343 ファックス：06-878-8353
E-MAIL: jcasmail @ idc. minpaku. ac. jp

『地域研究論集』執筆要領

1. 原稿は原則としてワープロ原稿でA4版用紙に横書きとする。

2. 執筆にあたっては、原則として常用漢字、現代かなづかいを使用し、平易な表現を用いる。

3. 句読点、かっこ、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いとする。

4. 用語、固有名詞等の表記の統一に留意する。各国の国名、地名、人名などは、漢字による表記が慣例となっている場合を除き、原則としてカタカナ書きにする。なお、一般化していない固有の名称は、初出に限りその原語（アルファベット表記）をかっこ内に付記する。

5. 外来語、外国の度量衡および貨幣単位は、カタカナ書きにする。図表では一般的な単位は記号(m, g, tなど)を用いる。ただし、漢字を用いるものは、適宜もっとも一般的な用法を用いる。

6. 原稿中の年号、月日およびその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。ただし、本文中ではコンマを用いず、万以上の数字には、万、億、兆などを用いる。概数の場合には、十数人、数十年などとする。なお、年号は原則として西暦とする。それ以外の歴法を使用する場合は、西暦をかっこ内に付記する。

7. 図、表および写真は、一件ずつ別紙を用い、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図表、写真ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）と表題や説明および出典等を記し、本文原稿の欄外にそれぞれの挿入箇所を指定するものとする。また、図表の大きさ（最大左右12センチ）および写真の場合はトリミングのラインを指定する。

8. 本文中で文献を指示する場合は、原則としてカギかっこを付け、著者名、文献刊行年次、引用ページの順に下記の例に従って記載する。ただし、この例に適合しない場合は、脚注において文献名と引用箇所のみを示すこととする。

例 [中村 1977: 98-99] [Lenoff 1971: 75]

同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

例 [木村 1987a: 12-14] [木村 1987b:

76-79]

また、著者が3人以上の場合は、最初の著者名のみを記す。

例 [斎藤ら 1986] [Dalton *et al.* 1977]

9. 脚注が必要な場合は一件ずつ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中の脚注を挿入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には本文のページ数を明記する。

10. 本文および脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

(1)文献の配列は、著者名（複数著者の場合は筆頭著者名）のアルファベット順とする。

(2)単行本、論文の場合とも、著者が複数の場合は、全員の氏名を掲げる。

(3)日本語文献の場合

(a)単行本

著者 出版年 『書名』シリーズ名（かっこ書きしない） 出版社

[例]

池田明史

1994 『イスラエル国家の諸問題』研究双書 441 アジア経済研究所

(b)論文

単行本所収論文

執筆者 出版年 「論文名」 編者 『書名』出版社

[例]

中村政則

1994 「軍配給組合研究の現状と課題」中村政則・高村直助・小林英夫編『戦時華中の物資動員と軍票』多賀出版雑誌論文

執筆者 出版年 「論文名」 『雑誌名』巻(号): 頁

[例]

福島真人

1988 「内面と力——ジャワ神秘主義と伝統的政治モデル——」『民族学研究』52(4): 336-360

(c)新聞

『新聞名』年月日（記事名をいれることが望ましい）

[例]

『朝日新聞』

1996年5月31日「奔流中国13 経済力つけ
ロビー活動」

(d)未刊行物

著者・執筆者 印刷年 「論文名・資料名」 印刷元（提出先）

(e)文書

執筆者 作成年月日 文書名（種類・文書番号） 所蔵機関（名称・場所）

[例]

斎藤良衛

作成年不詳 「日独伊同盟条約締結要録」
外務省記録 B. 1, O. O. J/x 3-7

(4)外国語文献の場合

(a)単行本

著者 出版年 書名（斜体にするので下線を付ける） 版次 出版地 出版社

[例]

Carr, E. H.

1946 *The Twenty Years' Crisis, 1919-1939: Introduction to the Study of International Relations* London: Macmillan

(b)論文

単行本所収論文

執筆者 出版年 論文 in 書名（下線）

ed. 編者名 出版地 出版社

[例]

Chakravarty, S. and R. S. Eckaus

1964 Choice Elements in International Planning in *Capital Formation and Economic Development* ed. P. N. Rosenstein-Rodan London: Allen & Unwin

雑誌論文

執筆者 出版年月（季節） 論文名 雑誌名（下線） 巻（号）：頁

[例]

Lokanathan, P. S.

1991 (Jan./Mar.) *Regional Co-*

operation and Development Indian Economic Journal 21(3): 396-400

(c)学位論文

執筆者 提出年 論文名（論文の種類） 提出先

[例]

Ross, Doroth

1988 "The Indo-Pakistan Relations in 1978" (Ph. D. dissertation) Columbia University

(d)新聞

新聞名（下線） 出版年月日（記事名をいれることが望ましい）

[例]

Niebuhr, Gustav

1996 (June 25) *Public Supports Political Voice for Churches New York Times*

(e)文書

執筆者 作成年月日 文書名（種類・文書番号） 所蔵機関（名称・場所）

[例]

NSC 41

1949 (Feb. 28) Record Group 90 (National Archives/Washington, D. C.)

(f)議事録・政府刊行物

おおむね、その機関、国によって通常とられている表記法を採用する。

お知らせ

『地域研究論集』では、読者と筆者の討論の場として新たに「地域研究フォーラム」の欄を設けます。掲載論文等に関するコメントを、電子メール、ファックス、あるいは郵送で、編集委員会までお寄せ下さい。採否についての決定は編集委員会において行います。

『地域研究論集』JCAS Review Vol.1 No.2

特集：人が大地に刻むもの ―地域生態史の試み―

初版発行 1998年6月30日
編集・発行 国立民族学博物館
地域研究企画交流センター JCAS
〒565-8511 吹田市千里万博公園10-1
電話 06-878-8343 FAX 06-878-8353
E-mail: jcasmail@idc.minpaku.ac.jp
制作 株式会社 平凡社
〒152-8601 東京都目黒区碑文谷5-16-19
電話 03-5721-1253(編集) 03-5721-1234(営業)

ISSN 1343-1897

©国立民族学博物館 地域研究企画交流センター

©1998 by the Japan Center for Area Studies.

Published by the Japan Center for Area Studies,

National Museum of Ethnology, Osaka, 565-8511 JAPAN Printed by Heibonsha